

# ルチアめる

## 「精神科訪問看護」について知る



重度認知症患者デイケアすずらん 係長・作業療法士 宮本佳代子

- 重度の認知症でもおちついて楽しくすごせる「重度認知症患者デイケアすずらん」
- FOCUS／知っておきたい「自立支援医療制度」
- Report／日本子ども虐待医学会 学術集会



# 精神科 訪問看護 について知る

聖ルチア会では、患者さまのご自宅や施設を訪問して在宅生活を支える訪問看護を行っています。精神科の訪問看護ではどのようにご利用者をサポートするのか。精神科訪問看護ステーションクローバーの岡所長に話を伺いました。

訪問看護ステーションクローバー所長  
看護師 岡 智美

## 精神科訪問看護とは？

訪問看護とは、看護師などがご自宅（施設）を訪問して、主治医の指示のもとに看護をすることです。病気や障がいがあっても、ご自宅や施設で暮らせるように、ご利用者の療養生活、社会生活を支援します。精神科の訪問看護では、体調面のチェックや服薬管理などに加えて、ご利用者とお話を通して孤独感の解消や精神の安定を目指すことが、支援のメインとなります。1回の訪問時間は通常30～40分ほどです。

ご利用者のご家族と暮らしている場合には、ご家族との

コミュニケーションも重要です。ご利用者を日々支えるご家族の精神的な負担をなるべく解消できるよう、お話を伺い、日々の生活でお困りのことがあれば一緒に解決法を考えます。また、ご本人とご家族との関係の調整のためにサポートすることもあります。

看護だけでなく、リハビリや生活環境のアドバイス、社会資源や福祉サービス利用の情報提供や手続きのお手伝いも行います。

### ご利用の対象者

- 精神疾患の患者さま
- 高齢で認知症や不安障害、うつ状態などの精神的症状のある方

### サービス内容

- 健康チェック・病状の観察
- 医療処置
- 服薬状況の確認
- 精神的・心理的支援・認知症ケアの相談
- 日常生活や療養上の支援
- 在宅でのリハビリテーション
- ご家族へのアドバイスや相談
- 社会資源・福祉サービスなどのご利用のお手伝い



## 変化する精神科訪問看護

利用者数はここ数年で増加し続けています。かつては慢性期の統合失調症の患者さまが中心でしたが、現在は気分障害（うつ病など）や発達障害の方の割合も増えてきました。年齢層も下は小学生から上は90代までと幅広くなっています。これは、聖ルチア病院がうつ病、児童思春期疾患、依存症、

統合失調症、認知症という、5つの疾患別の専門治療に特化していることが大きな要因です。

統合失調症に関しては、他の疾患が増えたことで全体に占める割合は減っていますが、利用者数そのものは増えています。近年では、従来の治療で十分な効果が得られな

かった方への新たな選択肢としてクロザピンでの薬物療法が始まり、国としても在宅生活への移行を推進していることが、その背景にあります。

こうした患者層や治療の変化に伴い、訪問看護に求められるスキルも変わってきています。そのためスタッフ一人ひとりが、時代や環境の変化に応じた関わり方を検討したり、疾患別の専門知識を積極的に習得しています。事業所全体としても、毎月スタッフが持ち回りで勉強会を開き、さらに難しい事例についてはケース会議を行い、情報共有とスキル向上

に努めています。

また、ご利用者の年代層が広がったことに加え、支援に関わる事業所も増えたことで、関係者はより多様になっています。精神障害者ホームヘルパーや保健所、作業所、児童相談所、学校の先生やスクールカウンセラーなどと密に連携し、ご利用者をより深く理解しながら、協力して支援していくことを目指しています。



## 聖ルチア会訪問看護ステーションクローバーの特徴

訪問看護ステーションクローバーでは、精神疾患の経験が豊富な看護師と作業療法士が訪問しています。精神疾患に関する知識と経験はもちろん、ご利用者のご経歴や趣向、生活模様などを踏まえた関わりが、ご利用者が安心して快適に過ごすための重要なポイントです。また、各専門職種の視点を日々情報交換して、ご利用者がより快適にお過ごしいただけるように支援しています。

聖ルチア病院との連携によって、症状の悪化や緊急の際には、訪問スタッフが同行してスムーズに受診につなげられます。聖ルチア病院で外来受診や入院治療後に在宅に移行される

方については、入院中から患者さまの様子を伺ったり、病棟スタッフと事前に情報交換しています。聖ルチア病院のデイケアやグループホームのご利用者については、各部門が参加する「在宅支援会議」で情報を共有し、連携しながら包括的な支援を行っています。

他院からご紹介いただくご利用者に関しても、かかりつけ医の先生と密にご相談させていただきながら、支援致します。現在ありがたいことに新規のご依頼も増えています。できるだけお待たせせずにお受けできるように、スタッフ一同頑張っています。

## 多職種の役割

### 看護師 古賀 友嗣

体調を診たりお話を聞くという看護業務に加えて、様々な福祉サービスや公的支援制度の情報提供など精神保健福祉士のような役割も果たします。私が訪問看護に配属になった12年前と比べると、公的支援制度も作業所などの施設も格段に増え、精神疾患があっても、地域で暮らすための体制が充実してきました。当ステーションのご利用者も、地域で長く継続して過ごされる方が増えていると実感しています。

プロとして知識や技術を日々アップグレードし、他の施設ともしっかりと連携して、ご利用者により快適に暮らしてもらえるようサポートしたいです。



### 作業療法士 山田 勲

作業療法士は、生活状況の確認に加えて、指先を使う制作やゲーム、散歩などの気分転換、買い物などの外出支援、筋力維持のためのリハビリなどを行います。看護師が薬や医療面を得意とする一方、作業療法士はADLの向上や生活環境の調整などを得意としています。専門職からの視点を日々情報交換してご利用者への支援を検討しています。依存症や児童思春期疾患のご利用者が増えているので、疾患別のアプローチなども積極的に学んでいます。

私自信は「ご利用者を笑顔にする」をモットーにしています。訪問中の一緒に過ごす時間だけでも笑顔になれるよう、楽しく安心できる雰囲気づくりをしています。



### 訪問看護ステーションクローバー

【訪問地域】久留米市・うきは市・小郡市・鳥栖市・吉野ヶ里町・みやき町・上峰町

TEL.0942-33-1587

### 訪問看護ステーションクローバーおおき

【訪問地域】柳川市・大川市・八女市・筑後市・みやま市・大木町・広川町・大牟田市・神埼市

TEL.0944-33-2227



ご利用料金例などはHPをご確認ください



～重度の認知症でもおちついて楽しくすごせる～

# 重度認知症患者デイケア すずらん



社会復帰施設「重度認知症患者デイケア すずらん」は、認知症の方が自宅から通い、認知機能や身体機能を維持するために、医療やリハビリを中心とした支援を受けられる施設です。



身体機能の維持のため「足リハビリ」や「嚥下体操」にも力を入れています

制作や畑での園芸、季節の行事を通して、脳を活性化させ楽しく過ごしていただきます



ご自宅や介護施設まで送迎を実施。送迎中も認知症専門スタッフが付きそいます

重度認知症患者デイケアすずらんでは、重度の認知症や、周辺症状(徘徊、暴言・暴力、被害妄想など)がある方も、落ち着いて、穏やかに過ごされています。重度の認知症や精神疾患に関する知識と経験が豊富な職員が、疾患だけでなくその方の生き立ちなどから、求められていることや訴えを理解して、ご要望に寄り添いケアしているためです。

また昨年の建物のリニューアルに伴いフロアが広がったことで、認知症ケアで重要な適切な距離感を、より確保できるようになりました。デイルームの一角には、畳のフロアもあり、静かな場所で横になって休むこともできます。従来の足リハビリや嚥下体操に加えて、エルゴメーターを新しく設置し、身体機能のリハビリも充実させています。

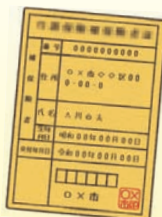
医師が毎日診察するので症状悪化を早期発見でき、その場で治療したり、必要な場合は入院治療にスムーズに移行できる点も安心です。そのほかにも看護師、作業療法士、介護職、公認心理師などの多職種がそれぞれの視点で意見を出し合い、お一人おひとりに合ったケアを実践しています。

## ～重度認知症患者デイケア すずらんの特徴～

### 1 医療保険で利用できる

介護保険にプラスして利用できます。自立支援医療(※)の利用で自己負担額を抑えることもできます。

※詳しくは5ページへ



### 2 専門の医師が毎日診察

精神科医が毎日回診。症状悪化の際にはスムーズに治療に移行します。



### 3 スタッフが認知症のエキスパート軍団

認知症や精神疾患に精通した職員による対応で重度の患者さまも穏やかに過ごされています。



## こんなことで困っていませんか

### 介護施設さま

- ご利用者の認知症の周辺症状が悪化し、対応できなくなってきた。
- 認知症のご利用者への対応で職員の負担が大きい。
- 認知症で夜間徘徊や昼夜逆転のある利用者様のお昼の活動を増やしたい。



認知症の症状が重度になると、個別対応や、不穏状態への対応など、施設職員さまの負担が大きくなるがあるかと思えます。昼間の時間帯を当施設で過ごしていただくことで職員さまの負担軽減になるだけでなく、症状が悪化した際には必要に応じて入院治療に移行できるので安心です。

### 医療機関さま

#### 【かかりつけ医】

- かかりつけ患者さまの、認知症の受診先を探している。

#### 【病院】

- 認知症のある患者さまが退院されるが、ご自宅での生活に不安がある。



当法人では、病院で専門性の高い認知症治療を提供することに加えて、重度認知症患者デイケアや精神科訪問看護などで、ご自宅や介護施設での生活をサポートしています。

かかりつけの先生との情報共有や、処方されたお薬の服薬管理なども適切に行っております。認知症の受診先や退院後の施設利用をご検討の際はぜひご相談ください。

### ケアマネジャーさま

- すでに介護保険をフルに利用しているが、さらにデイケアを利用したい。
- グループホーム(認知症対応型共同生活介護)で生活しているが、もっと外出や日中の活動を増やしたい。
- 認知症の症状悪化で、介護施設から利用を断られた。
- 在宅介護をしているご家族が、認知症の周辺症状(徘徊、暴言・暴力、被害妄想など)で困っている。

認知症の方は、周辺症状が重度でも体が元気なため要介護度が低いというケースもあります。当施設は医療保険で利用できるため、介護保険をフルで利用している方も、今受けているサービスに加えて利用できます。

ご家族にとっては、レスパイトケアとなるだけでなく、専門の医師が毎日診察するため症状が悪化しても早期に発見して治療につなげられるため安心です。

### お問い合わせ

詳しくはホームページをご覧ください。



上記のようなケースのほかにも、認知症でお困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。ホームページでは1日のスケジュール例やご利用料金をご紹介します。ぜひこちらをご覧ください。  
※送迎あり(片道20分程度) 詳しくはご相談ください。

重度認知症患者デイケア すずらん tel.0942-33-1350



作業療法士 係長 宮本 佳代子 作業療法士 課長 越智 哲平

「治療を続けたいけど、医療費が不安……」

うつ病や統合失調症など精神疾患の治療では、長期の通院が必要なことも多く、継続的に医療費の負担がかかります。「自立支援医療(精神通院医療)」は、こうした負担を軽くするための国の制度で、申請することで外来にかかる医療費の自己負担が1割に軽減されます。実際の申請手続きや注意点も含めて、制度のポイントをご紹介します。

今回のテーマ

知っておきたい  
「自立支援医療制度」

【監修】  
精神保健福祉士  
芳野 彩那



## 制度のポイント

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 対 象   | 医師の診断に基づき、精神科で継続通院が必要な方   |
| 費 用   | 原則1割負担(世帯所得により月額上限あり)     |
| 対象医療  | 診察・薬(内科薬は対象外)・訪問看護・デイケアなど |
| 有効期間  | 原則1年(更新申請が必要)             |
| 申 請 先 | 市区町村役所の福祉窓口(診断書などが必要)     |

精神保健福祉士より一言  
経済的な負担が少し軽くなるだけで、気持ちにもゆとりが生まれます。制度をうまく活用して、安心して治療を続けていきましょう!

## 申請の流れと手続き

### どこに申請するの?

住民票のあるお住まいの市区町村役所の福祉窓口(障害福祉課など)で申請を行います。「初めての申請」も「更新」も同じ窓口です。

### 申請に必要な書類は?

- 医師の診断書(所定の様式)原則2年に1回提出
- 健康保険証のコピー(保険証上の世帯全員)
- マイナンバーを確認できるもの
- 登録したい医療機関・薬局の情報

※自治体により異なることがあるのでお住まいの市区町村役所の福祉窓口(障害福祉課など)でご確認ください。

### 有効期間と更新手続き

支給認定期間は原則1年間です。継続利用するには有効期限の3カ月前から更新申請が可能です。うっかり失効しないよう、早めの更新を心がけましょう。

### 手続き時の注意点

- 診断書の作成には数日かかる場合もあるため、余裕をもって依頼しましょう。  
※聖ルチア病院ではご依頼から受取まで2~4週間かかります。
- 登録医療機関・薬局以外の受診や処方は1割にはなりません。
- 転院や薬局変更時には、お住まいの市区町村役所の福祉窓口に自立支援医療受給者証原本を持参し、変更手続きが必要になります。
- 精神障害者保健福祉手帳を所持している場合、自立支援医療制度と同時に申請することも可能です。詳細はソーシャルワーカーにお問い合わせください。

お問い合わせ

ソーシャルワーカーまでお問い合わせください。  
**TEL.0942-33-1581** (代表)

厚生労働省資料  
「自立支援医療  
(精神通院医療)  
について」



第16回

## 日本子ども虐待医学会 学術集会 REPORT



当院の神菌淳司医師が大会長を務めた「第16回日本子ども虐待医学会学術集会」が、8月23日・24日に福岡市で開催されました。子どもを専門とする小児科医、看護師、コメディカルのほか、行政や教育、司法関係者など多方面から約800名の方々にご参加いただきました。最新の情報や各医療機関等での取り組みに触れ、学びを深めました。

### 現場の実践を学会で発信—日本子ども虐待医学会学術集会で発表

当院の看護師2人がポスター発表を行いました。いずれも現場の実践に基づく内容で、医療関係者のみならず、児童相談所や警察など、子どもに携わる多くの関係者から大きな関心が寄せられました。



2024年度の診療報酬改定で新設された「精神科養育支援体制加算」を機に、当院では医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士などによる養育支援チームを立ち上げ、制度の趣旨に沿った体制整備を進めてきました。本発表では、対象者の早期把握に向けた運用ルールの整備、支援会議の設計、さらには院内全体に向けた制度の周知と啓発など、初動期における多職種連携の工夫と課題を共有。養育支援チームがリーダーシップを発揮し、院内全体で支援体制をつくるための土台づくりを行ったプロセスを紹介しました。

発表者



尋木 優介 (看護師)

外来での虐待対応が増えている今、児童思春期病棟を有する当院の役割はますます重要になっていると感じます。当院での虐待対応や児童思春期医療の実践を、今後も積極的に発信することで、他の医療機関や支援機関の取り組みの参考になればと思っています。

児童精神科の入院は長期化しやすく、その背景には医療だけでなく福祉や家庭の課題も複雑に絡みます。本発表では、当院の児童思春期病棟に入院した児童を対象に、虐待歴や一時保護歴の有無と入院期間との関係を分析しました。その結果、虐待歴や一時保護歴のある子どもたちは90日以上長期入院となる傾向が強いことがわかりました。これにより、医療の枠を超えた行政との連携や、早期の支援介入の必要性が浮き彫りとなりました。

発表者

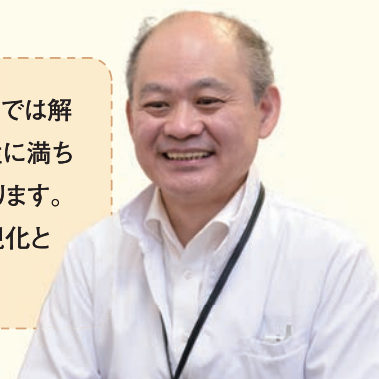


別府 翼 (看護師)

学会に参加して、日頃、子どもたちと何気なく接していた自分の姿を振り返る機会になりました。改めて「子どもの人権」を意識することの大切さを実感しました。今後も、子どもたちの声に丁寧に耳を傾ける看護を大切にしていきたいです。

### 大会長 神菌淳司医師より

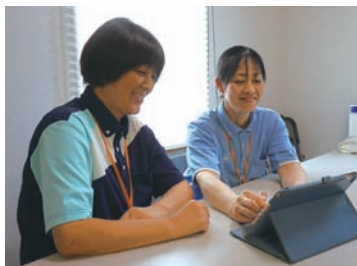
精神科医が初めて主導した今回の学会は、多方面・多職種が一堂に会し、医療だけでは解決できない虐待の課題に共に向き合う貴重な機会となりました。複雑さや不確実性に満ちた領域に、支援の手を差し伸べることの重要性を共有できたことは大きな意義があります。開催を終えて一安心すると同時に、今後は認知や対応が遅れている性虐待の可視化と初動対応の学びを九州・沖縄から広げ、全国へとつなげていきたいと思っています。



訪問看護ステーションクローバーは大木町にも拠点を置き、南部の地域(柳川市・大川市・八女市・筑後市・みやま市・大木町・広川町・大牟田市・神崎市)のご利用者を担当しています。現在は看護師2人が所属し、約70人のご利用者を訪問しています。精神科訪問看護では、ご利用者と訪問する職員との関係性の構築が重要です。こうした関係性を保つため、週に1回、クローバー(久留米市)の職員と入れ替わって訪問し、



「精神科の訪問看護は、関係性の構築がより大切だと実感します」



週1回は久留米のスタッフと交流し情報交換

## 訪問看護ステーションクローバーおおき

〒830-0416

福岡県三潁郡大木町八丁牟田  
254番地2 塚本ビル1-1

TEL.0944-33-2227



職員同士の情報共有やスキルの継続性を図っています。

クローバーおおきのご利用者はご家族と生活されている方が多く、ご家族への支援も大切な役割です。お話を通して安心していただいたり、お困りごとの解決策と一緒に考えたりしています。さらに近年は、相談支援専門員や精神障害者ホームヘルパー、福祉事業所、行政など多職種との連携にも積極的に取り組んでいます。モニタリングやケア会議などを通じて顔の見える関係を築き、こまめに情報交換を重ねながら、ご利用者に最適な支援を追求しています。

## 連携先の皆さまへのメッセージ

ご利用者が地域で安心して過ごしていただけるよう、病状悪化の予防や早期対応など、関係する皆さまと連携して一緒に取り組んでいきたいです。



訪問看護ステーションクローバー 係長 佐田 由香里  
(訪問看護ステーションクローバーおおき 責任者)

## シロタエギクの会(依存症家族会)

当院では、依存症患者さまの家族会「シロタエギクの会」を開催しています。ご本人との関わり方を学んだり、他のご家族とお話することで、ご家族の負担を少しでも軽減できることを目指しています。

●開催頻度:毎月1回(土曜日午後)

●参加費:200円

※患者さまが当院を受診されていないご家族さまもご参加いただけます。

【問い合わせ先】0942-33-1581 担当:森田(臨床心理課)



プログラムの内容など、詳細をご覧ください



社会医療法人 聖ルチア会  
聖ルチア病院  
St. Lucia's Hospital

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町1012

TEL0942-33-1581(代表)

FAX 0942-33-1586

### 関連施設

- ・精神科デイケア、デイナイトケア、ショートケア
- ・重度認知症患者デイケア すずらん
- ・訪問看護ステーション クローバー
- ・訪問看護ステーション クローバー おおき
- ・グループホーム ルピナスⅠ・Ⅱ・Ⅲ

